

# 江差線10駅 最後の夏

## 7 桂岡

■メモ 上ノ国町桂岡、1936年(昭和11年)11月10日に江差線全線開通に伴い開業。82年に駅員がいなくなり、86年には木造駅舎を取り壊して貨物列車の車掌車を改造した駅舎を設置した。木古内駅から30・7キ。

山を日本海側に向かって下ると、周囲に田畑が広がる。民家の数も増えてきた辺りで桂岡駅が見えてきた。吉堀駅と同様に待合室は貨物列車の車掌車を改造した無人駅。1日の利用者は数人程度だが、江差線が全線開通した1936年(昭和11年)に同時開業した駅の一つだ。75年までは貨物取り扱い駅としてにぎわった。使われなくなった貨物列車用の鉄路とホームが、今もその名残をとどめている。桂岡



# 貨物発送 かつては活況

駅近くに鉄鉱石やガラス原と鉄鉱石を函館方面へと運料などの重晶石を産出するんだという。「最盛期はマ鉱山が2カ所あり、62年にンガンを積み出して上り、宴会となることもしばり、いろいろな人から、は多かった」

原さんの自宅は桂岡駅から10分も離れていない目と鼻の先。昭和20、30年代は駅を利用する顔見知りばかりが通過する生活を65年間続ける。近年は運行本数も利用者も減ったが、「駅のそばで暮らすのが普通になっ



桂岡駅ホームでかつての駅の賑わいを語る原さん

そのころの様子を覚えてる人が桂岡駅前に住む。重晶石を採掘した茂賀利鉱山事務員だった原真志雄さん(85)だ。原さんは58年にた。「うちはお茶も出るし、鉱山が閉山するまで駅で鉱山駅の待合室で1人で待つ石の積み出しに立ち会ってよりもずっとよかったからいた。1日に数回編成の貨物列車が2往復し、重晶石夜は江差などで所用を済んだ。